

新・民法小説（5） あらすじと注

あらすじ

第9話 暁月は12月の景色を楽しみながら、東京駅の丸の内北口にある老舗書店へ向かい、助教の黒岩が推薦していた絵本を見つけた。それは法学部出身の人気作家が法学部らしい発想で書いたものらしい。黒岩に出会った花村教授は彼を研究室に誘って、「法と絵本」などについて話したことをきっかけに、日本における民法に関連する小説を取り上げた。黒岩は、作家が書いた小説を「民法小説」に含めるとしても、家族の問題にばかり言及しており、なぜ財産法の問題に言及しないのかという疑問を抱き、花村教授に尋ねてみた。ソラの質問と同様なので、花村教授はまとめてメールで答えた。最近の財産法（市場整備のための民法学）には抽象的な法理が多く、国民一般の日常生活から遠いからではないかという。

第10話 新年を迎えるにあたって、花村教授とゼミ生たちは毎年恒例の七福神めぐりに行った。七福神めぐりの後は、花村教授の家で新年会が開催された。

七福神めぐりから10日ほど後、ゼミ生の白川彩香は進路相談のことで花村教授の研究室を訪れた。白川は、韓国や中国に留学して韓国・中国などの法学教育の歴史を研究し、将来は研究と実務を両立させて、法整備支援にかかわる弁護士になりたい、というのである。花村教授は、将来に備えて短期留学を通じて韓国や中国の社会を体感すること自体は有益であるが、短期留学中に韓国や中国の法学教育の現状を十分に把握して研究を完成させるのは無理であり、また、将来に研究と実務を往復するには、パイオニアになるという気持ちを持って、困難を立ち向かう必要がある、とアドバイスした。

注

第9話

1

路面電車 道路上に敷設された線路を走る電車。世界初の営業運転として 1881 年のドイツにおいて登場した。日本においては、明治 28 年に京都で日本初の路面電車が運行され、明治 31 年には名古屋電気鉄道が開業し、続いて明治 33 年に東京でも東京馬車鉄道が東京鉄道と改称された。

須田町 東京都千代田区にある地名。江戸時代に須田町と記されたが、現在は神田須田町。

『クリスマスを探偵と』 伊坂幸太郎の作品。2017 年に発行。著者は 1971 年、千葉県生まれ。1995 年、東北大学法学部卒業。舞台はドイツ。クリスマス、寂しく過ごす大人の絵本。

『かわいいおとうさん』 山崎ナオコーラ作、ささめやゆき画。2017 年に発行。親子の触れ合いの暖かさについて語る。

2

教授会 学校教育法 59 条 1 項は、「学校には、重要な事項を審議するため、教授会を置かなければならない」と定める。東京大学では、基本組規則第 29 条により、各研究科において教授会が行われており、研究科の教育研究に関する基本組織及び教員の選考に関する事項について審議し、研究科長に対して意見を述べると定める。それに加えて、当該規則又はその他の規則により定められた研究科の教育研究に関する事項について審議し、及び総長又は研究課長の求めに応じ、意見を述べるとされる。

フィリップ・マロリー Philippe MALAURIE、現代フランスの代表的な民法学者。1925 年 3 月 7 日、ドイツのマインツに生まれた。博士論文は、「公序と契約」と題された比較法研究で、1951 年に公表されている。

鷗外 森鷗外(1862～1922 年)。本名は森林太郎。日本の明治・大正期の小説家・評論家・翻訳者・陸軍軍医・官僚。東京大学医学部卒。代表作は、『舞姫』(1890 年)、『キタ・セクスアリス』(1909 年)、『青年』(1910 年)など。

大江健三郎 1935 年 1 月 31 日に生まれ、日本の小説家。東京大学文学部フランス文学科卒。代表作は、『飼育』(1958 年)、『芽むしり仔撃ち』(1958 年)、『個人的な体験』(1964 年)など。

村上春樹 1949年1月12日に生まれ、日本の小説家・アメリカ文学翻訳者。早稲田大学第一文学部映画演劇科卒。代表作は、『風の歌を聴け』(1979年)、『羊をめぐる冒険』(1982年)、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(1985年)など。

石坂洋次郎 日本の小説家(1900～1986)。慶應義塾大学国文科文学部卒。代表作は『石坂洋次郎短篇集』(1934)、『金魚』(1935)、『麦死なず』(1936)など。

『**青い山脈**』 昭和22年に発表された石坂洋次郎の小説。戦後最初の新聞連載(朝日新聞)、新潮社刊。その当時の民主主義下の男女関係を明るく青春風俗として描いたもの。

3

石川達三 日本の小説家(1905～1985年)。早稲田大学英文科中退。代表作は、『蒼氓』(1935年)、『青春の蹉跎』(1968年)など。

『**日蔭の村**』 昭和12年に発行された石川達三の小説。ダム建設は決まったものの、なかなか工事が始まらない状況で、村民の対応や東京市の折衝について描いたもの。

『**人間の壁**』 1957～1959年にわたり『朝日新聞』に連載された石川達三の長編小説。まじめな小学校教師の妻が、共稼ぎを理由に退職を警告された。当時行われていた教員の組合活動を背景とする。

星野英一 日本の法学者、民法専門(1926～2012年)。東京大学名誉教授。『借地・借家法』『民法のすすめ』などを著作。

三島由紀夫 本名は平岡公威。日本の小説家・劇作家・随筆家・評論家・政治活動家・大蔵官僚・皇国主義者(1925～1970年)。東京大学法学部卒。代表作は、『仮面の告白』(1949年)、『潮騒』(1954年)、『金閣寺』(1956年)など。

『**絹と明察**』 三島由紀夫の長編小説。1964年文芸雑誌『群像』1月号から10月号に連載され、同年10月15日に講談社より単行本刊行。文庫版は新潮文庫。「父親」というテーマを背景に、近代主義的な輸入思想の〈明察〉の男と、日本主義の〈絹〉の男との二重構造の対比や交錯について描いたもの。

高橋和己 日本の小説家で中国文学者(1931～1971年)。京都大学文学部中国語文学科卒。代表作は、『悲の器』(1962年)、『邪宗門』(1965年)、『憂鬱なる党派』(1965年)、『わが解体』(1969年)など。

『我が心は石にあらず』 高橋和己の小説。1967年に発行。高度経済成長と政治の時代における会社のエリートで組合のリーダーについて語る。

石牟礼道子 1927年生まれ、日本の小説家・詩人。代表作は、『苦海浄土 わが水俣病』(1969年)、『はにかみの国 - 石牟礼道子全詩集』(2002年)など。

『苦海浄土』 石牟礼道子の長編小説『苦海浄土 わが水俣病』。1969年に発行。水俣病の実態を、被害者からの証言をもとに描いたもの。

有吉佐和子 日本の小説家・劇作家・演出家(1931～1984年)。東京女子大学短期大学部英語科卒。代表作は、『紀ノ川』(1959年)、『華岡青洲の妻』(1967年)、『出雲の阿国』(1969～1972年)など。

『複合汚染』 有吉佐和子の長編小説。1974～1975年まで朝日新聞に連載。新潮社から単行本上巻が出版されたのは1975年4月。2種類以上の汚染物質が環境中や生体内で、相乗的・相互干渉的に影響し合い、被害を大きくする汚染を描いたもの。

公害訴訟 公害に関して損害賠償や差し止め請求の訴訟である。典型例としては、1960年代後半から1970年代前半に争われた、4つの重大な公害をめぐる訴訟(四大公害訴訟)。熊本県の水俣病(チッソ水俣工場から排出された有機水銀による水俣湾の水質汚染)、新潟県の水俣病(昭和電工から排出された有機水銀による阿賀野川の水質汚染)、富山県のイタイイタイ病(三井金属鉱業神岡鉱山から排出されたカドミウムによる神通川の水質汚染)、三重県四日市市のぜんそく(石油コンビナート6社から排出された硫黄炭層酸化物による大気汚染)。その他に、大阪アルカリ事件(化学工場から排出された亜硫酸ガスによって周辺の農作物が被害を受けた事件、大判大5・12・22民録22輯2474頁)も有名な公害訴訟。

サラ金被害 「サラリーマン金融」あるいは「消費者金融」という言葉から略される。勤務先の身分証明書、健康保険書、自動車の運転免許、学生証などの提示によって、無担保、無保証で高金利を付け即座に過剰に貸し出す。サラ金被害者は自殺、離婚などの深刻な社会問題となった。

食品偽装 2001年に複数の食肉卸売業者が輸入牛肉を国産牛肉と偽って国に買い取りを要請し、補助金を詐取した雪印牛肉偽装事件などがある。

リコール隠し 製品に欠陥があるとき、道路運送車両法に基づき、生産者が公表して製品を回収・修理するというリコール制度。2000年に三菱自動車工業が多数万台にのぼるリコールに

つながる重要不器具情報を運輸省（現在の国土交通省という）に報告せず、社内で隠している事件がリコール隠し問題の典型例。

宮部みゆき 1960年に生まれ、日本の小説家。代表作は、『龍は眠る』（1991年）、『火車』（1992年）、『理由』（1998年）、『模倣犯』（2001年）、『名もなき毒』（2006年）など。

『**火車**』 宮部みゆきの小説。1992年に発行。消費者金融の社会問題をテーマとして、サラリーマン金融やカード破産などの借財と多重債務をめぐる取り立てに翻弄される女の生き様を、彼女を追う刑事の視点から描いたもの。

池井戸潤 1963年に生まれ、日本の小説家。慶應義塾大学文学部および法学部卒。代表作は『空飛ぶタイヤ』（2006年）、『下町ロケット』（2010年）など。

『**空飛ぶタイヤ**』 2006年に発行された池井戸潤の経済小説。2002年に発生した三菱自動車製大型トラックの脱輪による死傷事故、三菱自動車によるリコール隠し事件などを語る。

家族問題 家の統率者である戸主は、家産を管理し、家族の婚姻を許可する権利などの強い権力を握っていた。権限の濫用により家族の権利が犠牲にされる危険性があった。

小作問題 地主から土地を借り、高額な小作料を支払ったが、耕作権はきわめて弱かった。さらに、小作契約は文書によらず口約束のことが多かったため、地主の一方的意思で小作契約の解除、土地取り上げが行われることが少なくなかった。

住宅(借地借家)問題 第一次世界大戦後の時期から日本で住宅問題が初めて登場。その後の好景気は、商工業の急激な発展により、大都市の人口を増加させ、都市部で住宅不足の問題が引き起こし、家賃値上げや居住の追い出しなど困難な状態であった。また大正12年に関東大震災により大量の住宅が喪失されたのと同時に、質の低い住宅などの不良住宅地区の問題も生じた。第二次世界大戦後において戦災と海外からの引揚者によって、日本では多くの住宅が不足しており、多くのバラックなどが建てられた。その後、バブル経済時期においては地価が上昇しつつ、住宅価格と家賃が高騰した結果、地上げや住民の追い出しが問題になり、住宅問題を著しく深刻化された。

第10話

1

霊園 共同墓地。特に、広い土地に公園風につくられたものをいう。（『日本国語大辞典』より）

渋沢家 渋沢栄一(1840－1931 年)、近代日本資本主義の指導者。一橋家に仕えて幕臣となり、パリ万国博覧会幕府使節団に加わって渡欧した。明治維新後、大蔵省官吏を経て、1873 年に第一国立銀行(第一銀行の前身)を創立した。1915 年に渋沢同族株式会社を設立し、第一銀行を中核とする渋沢財閥を形成した。(『日本国語大辞典』、『日本大百科全書』参照)

敷地 建物を建てたり、道路、堤防、河川などに使ったりするための一定区域の土地。(『日本国語大辞典』より)

穂積重遠 (ほづみしげとお) 1883－1951 年、民法学者、陳重の子。東京帝国大学法科大学卒業。民法の身分法の領域に多くの業績を残した。1943 年定年退職後、1944 年貴族院議員となり、1949 年には最高裁判所判事となる。(『日本大百科全書』より)

五重塔 五重の仏塔の総称。木造、石造などある。仏塔は、本来は仏陀の廟であった。日本では現存する最古の五重塔は奈良法隆寺五重塔である。(『日本大百科全書』より)

すれ違う(擦れ違う) ①触れ合うほど近くを反対方向に通りすぎる。②時間や位置などがずれて、会えるはずが会えないままになる。③議論などで、論点がかみあわない状態になる。(デジタル大辞泉より)

朱印帳 神社仏閣で、参詣者が朱印を押してもらうための帳面。(デジタル大辞泉より)

三が日(三箇日) 正月の元日・二日・三日をいう。この三日間は年始の祝日として、雑煮を祝い、年賀の挨拶にまわり、訪問客には屠蘇をすすめる。(『日本国語大辞典』より)

七福神 福德の神として信仰される 7 神の組合せである。大黒天(だいこくてん・福德開運の神様)、寿老人(じゅろうじん・長寿延命、富貴長寿の神様)、毘沙門天(びしゃもんでん・四天王の一仏で、融通招福の神様)、福祿寿(ふくろくじゅ・招徳人望の神様)、恵比須(えびす・漁業の神様、商売繁盛の神様)、弁財天(べんざいてん・財宝を授けてくださる女神)、布袋(ほてい・笑門来福、夫婦円満、子宝の神様)をいうが、寿老人は、福祿寿と団体異名として除き、吉祥天(きっしょうてん・福德の女神)を加えることもある。(『日本大百科全書』参照)

キャンパス内の大講堂 安田講堂。東京大学本郷キャンパスにある。実業家安田善次郎(やすだぜんじろう)の寄付により建設された。(デジタル大辞泉より)

重要文化財になっている門 赤門。江戸本郷の加賀百万石前田家の上屋敷に建てられた御守殿門。東京大学の代名詞となった東京都文京区本郷の赤門は現存する唯一の御守殿門である。(『日本大百科全書』参照)

東京藝大(東京藝術大学) 東京都台東区にある国立大学法人。1887 年設立の東京美術学校

と東京音楽学校を統合し、1949年に新製の国立大学として東京藝術大学と改称された。2004年国立大学法人となる。(『日本大百科全書』参照)

谷中銀座(谷中銀座商店街) 日暮里駅から歩いて数分のところにある商店街。昔ながらの個人商店を中心に、様々な業種約70店舗が全長170メートルほどの短い通りに立ち並んでいる。(谷中銀座商店街振興組合ホームページより)

身に染みる ①しみじみと深く感じる。②秋の冷気が強く感じられる。(デジタル大辞泉より)

ゴールイン(英語 goal in) ①競走などで、決勝線に到達すること。②バスケットボール・サッカー・ホッケーなどで、ボールを相手のゴールに入れて得点すること。ゴール。③目的・目標に達すること。特に、結婚すること。(デジタル大辞泉より)

新年会 新年宴会。新年を祝って催す宴会。(デジタル大辞泉より)

文士村 田端文士村。田端は明治の中頃に農村であったが、東京美術学校(現東京藝術大学)の開校により、次第に若い芸術家が住むようになった。その後、芥川龍之介(あくたがわりゆうのすけ)や室生犀星(むろうさいせい)などの小説家、詩人も田端に集まり、大正末から昭和にかけての田端は「文士村」としての一面を持つようになった。(田端文士村記念館ホームページより)その他に、馬込文士村もあった。

2

忘年会 年末に、その一年の苦労を忘れるために行う宴会。(デジタル大辞泉より)

年越しそば 細く長くという縁起の意味で、大みそかの夜に食べるそば。晦日蕎麦、晦(つごも)り蕎麦とも呼ばれる。(デジタル大辞泉より)

大みそか 1年の最終の日(12月31日)。大みそかの夜は正式な食事(おせち)をするものである。日本全国の寺院では、除夜の鐘(108回鐘)をつき、人々はこの鐘を新年を迎える合図にしている。(『日本大百科全書』、デジタル大辞泉参照)

雑煮 魚貝、野菜など数種の材料を煮合わせた汁に餅を加えた羹。雑煮餅ともいう。主として正月三が日の祝い膳に用いる。(『日本大百科全書』より)

法科大学院の入試制度 法学教育、司法試験、司法修習を有機的に連携させた「プロセス」としての法曹養成制度を整備するために、法科大学院の制度は、2004年4月に創設された。法科大学院の入学選抜では、志願者全てが「適性試験」を受けることとされており(2017年度実施していた法科大学院評価基準要綱 解釈指針6-1-4-1)、また、入学者の3割以上を、非法学部出身者や実務の経験を有する者などとするよう努めることとされていた(平成

十五年文部科学省告示第五十三号 3 条 1 項)。しかし、近年の法科大学院定員割れ問題、新司法試験合格率の低迷などの課題を抱え、法曹養成制度改革の更なる進捗が検討されてきた。法科大学院の入試制度について、未修者 3 割枠の撤廃(2019 年度入試から)、各法科大学院による適性試験の利用の任意化(2019 年度入試から)などの方針を決めた。(朝日新聞デジタル・2017 年 11 月 24 日記事、文部科学省「法科大学院改革の取組状況等について」〔平成 29 年〕等参照)

3

紅白歌合戦 大晦日の夜に放送され、NHK の歌謡番組。男女が紅組・白組に分かれて競う。第 1 回は 1951 年 1 月 3 日にラジオの正月番組として放送された。1953 年からはテレビとラジオで同時に放送され、同年大みそかから年末恒例番組となる。今年も、韓国の人気ガールズグループ・TWICE が第 68 回の紅白歌合戦に初出場する予定である。(『日本大百科全書』、デジタル大辞泉、NHK オンラインホームページ参照)

テレサ・テン 1953-1955 年、台湾の歌手、芸名は鄧麗君(Teresa Teng)である。1974 年日本にデビューし、「空港」のヒットで同年レコード大賞新人賞を受賞した。東アジア文化圏を含め、広い地域において人気を博し、生前から没後も「アジアの歌姫」と呼ばれている(『日本人名大辞典』、ウィキペディアフリー百科事典参照)

李香蘭 映画女優山口淑子の芸名である。山口淑子(1920-2014 年)、中国奉天(現瀋陽)の生まれ。1938 年中国人女優として李香蘭の名でデビューした。歌謡曲「夜来香」をヒットさせ、歌手としても人気を博した。1946 年に日本に帰国し、映画女優として活躍した。引退後、1974 年より 1992 年まで参議院議員を務めた。(デジタル大辞泉より)

満映(株式会社満洲映画協会) 1937 年に「株式会社満洲映画協会法」に基づき、満洲国政府と南満洲鉄道株式会社の共同出資により、満洲国首都で設立された国策の映画会社である。映画の製作・配給・映写、各地で映画館の設立など多数の業務を行った。看板スターは李香蘭であった。日本敗戦後、東北映画公司、東北映画制片廠を経て、1955 年長春電影制片廠に引き継がれた。(ウィキペディアフリー百科事典参照)

法整備支援にかかわる弁護士 日本弁護士連合会は、独立行政法人国際協力機構(JICA)から依頼を受け、途上国の国際司法支援に携わる長期派遣専門家として途上国(モンゴル、カンボジア、ベトナム等)に派遣される弁護士の推薦を行っている。また、1999 年 9 月に国際司法支援活動弁護士登録制度を創設した。日弁連が管理する名簿に司法支援活動に関心の

ある会員は登録することができる。(日本弁護士連合会ホームページ参照)

4

韓国の法科大学院 韓国における従来の法曹養成制度は、大学法学部を中心とする法学教育－司法試験－司法研修院での 2 年間の司法修習である。法学部教育と法曹養成との乖離、弁護士養成のための研修の不十分さなどの問題を踏まえ、法曹養成制度改革について議論を経て、2009 年 3 月から法学専門大学院制度が発足した。法学専門大学院を設置する大学は法学部を廃止し、また、従来の司法試験を弁護士資格試験に一本化し、司法修習を廃止して職域別の実務研修制度を導入した。すなわち、今の法曹養成制度は、適性試験－法学専門大学院(法学未修者・既修者を問わず 3 年制課程のみ)－弁護士資格試験－職域別の実務研修という形になった。(三澤英嗣「韓国の法曹養成制度」法曹養成対策室報No. 5 [2011 年]、尹龍澤「韓国の法学教育と法曹教育－韓国型ロースクールの開幕を目前にして」関西大学法学研究所ノモス第 24 号[2009 年 6 月]参照)

マーサ・ヌสบaum (Martha Craven Nussbaum) シカゴ大学哲学科、神学校及びロースクール法学・倫理学教授。関心分野は、古代ギリシア・ローマン哲学、政治哲学、フェミニズム (feminism)、倫理学(動物の権利を含め)などにある。『経済成長がすべてか?－デモクラシーが人文学を必要とする理由』(Not for profit: why democracy needs the humanities)という著書では、同教授は、経済成長が重視され、グローバル化が進展するいま、人文学的な教育及びそれによる「批判的な思考能力」と「共感の能力」の育成の重要性を説いている。(ウィキペディアフリー百科事典も参照)

梶を切る(舵を切る) 船の舵を操り、進行方向を変える。また、船の操作から転じて、ある方向に物事や組織の方向を大きく変えるという意味でも用いられる。(実用日本語表現辞典サイト参照)

法学部廃止論 「アメリカでは、法律は、文学や経済学など、他の学部を経てからロースクールに入学して学ぶものであるから、日本でも、ロースクールを作るのであれば法学部は解体すべきという議論」であり、法科大学院の創設時には、相当に論じられていた。池田真朗教授は、法学部廃止論においては、法曹養成以外の独自の法学部教育の意義が検討されていなかったことを指摘した。(池田真朗「マジョリティの法学部生のための、専門性のある法学教育」書齋の窓 643 号[2016 年 1 月]参照)

腰を据える ①腰を下げて構える。腰の重心を低くする。②落ち着いて事に当たる。腰を落ち着

ける。③ある場所に落ち着く。腰を落ち着ける。(デジタル大辞泉より)

(現代中国における…)法学教育、法曹養成の現状 1977 年から、中国における法学教育は、短期大学、学部、法学修士課程、法律修士課程 (Juris Master、法学未修者・既修者に応じて 3 年制・2 年制課程がある)、博士課程など、様々なレベルで行われている。法曹となる前の教育・研修や法曹の再教育は、職域別で国家法官学院等、国家検察官学院等、弁護士協会での教育・研修を中心に行われている(法官培訓条例 10 条、11 条、検察官培訓条例 20 条、21 条、申請律師執業人員実習管理規則 14 条。注:法官=裁判官、律師=弁護士、培訓=訓練し養成すること、執業=職業参入)。また、2002 年から 2017 年まで実施されていた国家司法試験制度は、来年(2018 年)から国家統一法律職業資格試験制度に移行し、初任裁判官、初任検察官、弁護士、公証人に加え、行政処罰決定の審査、行政不服審査、行政裁決を行う公務員の初任者、法律顧問を務める公務員の初任者、法律紛争を仲裁する仲裁人になるために、同資格試験に合格することとされている(「中華人民共和国法官法」等 8 件の法律の改正に関する全国人民代表大会常務委員会決定)。(胡光輝「中国における法学教育と法曹養成」比較法研究 73 号[2011 年]等参照)

政府が推奨する「文明」「法治」などの価値観 「中国共産党の第 18 回党大会では国、社会、国民の 3 つの角度から社会主義の核心的価値観である『富強、民主、文明、調和、自由、平等、公正、法治、愛国、敬業、誠信、友善』の 24 文字を提案し」ていた。その中では、「文明」は個人の教養、国の発展の動力、国の文化にかかわる価値観であり、「法治」は国政の実現にかかわる基本理念として理解されることがある。(人民網日本語版・2016 年 3 月 1 日記事より引用、人民網・中国共産党新聞網ホームページ参照)

5

付け足す あるものの上に、さらにつけ加える、補い加える。追加する。(『日本国語大辞典』より)